

訂正願

Transactions of The Iron and Steel Institute of Japan, Vol. 27 (1987), No. 3 (March) 掲載記事概要を次のとおり訂正致します。

Research Note

Drop Weight Tear Test of Linepipe Materials by Using Laterally Compressed Specimens

By Toshio ISHIHARA et al.

高靱性ラインパイプ材についてプレスノッチ落重試験 (PN-DWTT) を実施すると破面に異常破面が生じ、その材料のき裂停止特性の判定が困難になることがある。この問題を解決する手段としてラテラルコンプレッショ

ン落重試験 (LC-DWTT) を開発し他の落重試験との比較研究をおこなった。

LC-DWTT の適用により異常破面の発生はほぼ防止できた。また 85% 延性破面遷移温度は PN-DWTT のそれよりも高く現れたがプレクラック落重試験 (PC-DWTT) よりも低くなった。LC-DWTT における動的荷重-変位挙動を解析した結果 LC-DWTT のき裂発生エネルギーは消滅し、全吸収エネルギーは PN-DWTT のき裂伝播エネルギーにほぼ等しいことが明らかになった。一方、PC-DWTT の吸収エネルギーは他の DWTT に比較して低い値を示し、その原因はプレクラック導入時に生じる試験リガメント部の塑性変形であることが明らかとなった。

会員には「鉄と鋼」あるいは「Trans. ISIJ」のいずれかを毎号無料で配付いたします。「鉄と鋼」と「Trans. ISIJ」の両誌希望の会員には、特別料金 5,000 円の追加で両誌が配付されます。

図書案内

最近のアーキ炉製鋼法の進歩 (改訂版)

共同研究会電気炉部会編

日本鉄鋼協会 発行

A4 判 245 頁 定価 会 員 4,500 円 (送料別)

非会員 5,500 円 (送料別)

1975 年以来、全粗鋼生産量が停滞するなかで、電気炉鋼比率は着実な伸びを示し、1985 年には約 30% に達しています。このことは、スクラップの安定供給に加えて、電気炉製鋼技術の進歩に負うところがきわめて大きいものと思われます。

電気炉部会に発表された技術改善事例を中心に 1981 年 6 月に発行された初版は、内外の現場技術者を中心に好評を博しました。

今度、その後 5 年間に開発された新しい技術を集大成し、内容を充実した改訂版を発行する運びとなりました。さらに本書には、本年 2 月の電気炉部会メンバーによる欧州調査団報告も添付されており、日夜、電気炉製鋼技術の向上に携わる技術者が、現状を認識し今後を考える上で大いに役立つものと考えております。是非ご利用下さいように御案内いたします。

(内容)

1. 日本のアーキ炉製鋼法の概況, 2. アーク炉の大型化及び UHP 操業, 3. 酸素富化と粉体吹込み技術, 4. 炉内精錬, 5. 炉外精錬, 6. 連続铸造法, 7. 原料, 8. アーク炉排熱によるスクラップ予熱, 9. 電極, 10. アーク炉の水冷化, 11. 集じん装置, 12. アーク炉作業の機械化, 自動化, 13. アーク炉関係新技術, 参考資料・欧州 (独仏) アーク炉製鋼技術調査団報告書

申込方法

次のいずれかの方法でご送金願います。

・現金書留, ・郵便振替 (東京 7-193 番)

・銀行振込 (第一勧業銀行・東京中央支店 (普) No. 1167361)

問い合わせ先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4

経団連会館 3 階 日本鉄鋼協会庶務課 水野

電話 (03) 279-6021